

第 34 回福島県輸血懇話会抄録集

令和 3 年 10 月 16 日 (土)

WEB 開催

第 34 回福島県輸血懇話会要綱

日 時： 2021 年（令和 3 年）10 月 16 日（土）14 時から 17 時

会 場： WEB 開催（配信会場；公立岩瀬病院）

実行委員長： 三浦純一 公立岩瀬病院 名誉院長

事 務 局： 公立岩瀬病院 臨床検査科

〒962-8503 福島県須賀川市北町 20

TEL ; 0248-75-3111 FAX ; 0248-72-0141

Email ; kensa@iwase-hp.jp

資 料 代： 無料（WEB 開催のためホームページに掲載）

主 催： 福島県輸血懇話会

共 催： 一般社団法人日本輸血・細胞治療学会東北支部

一般社団法人福島県臨床検査技師会

一般社団法人須賀川市医師会

公益社団法人福島県看護協会県南支部

福島県病院薬剤師会

株式会社イムコア

バイオ・ラッドラボラトリーズ株式会社

後 援： 一般社団法人福島県医師会

一般社団法人福島県薬剤師会

公益社団法人福島県看護協会

承 認： 「日本医師会生涯教育講座」

「日本輸血細胞治療学会認定制度 各協議会」

「日臨技生涯教育研修」

福島県輸血懇話会ホームページ： <http://square.umin.ac.jp/ffmt/>

目次



第 34 回福島県輸血懇話会要綱.....	1
目次.....	2
ごあいさつ.....	3
福島県輸血懇話会 開催地・特別講演一覧.....	4
第 34 回福島県輸血懇話会プログラム.....	5
一般演題 1 当院における貯血式自己血輸血の現状と今後の課題	7
一般演題 2 輸血用血液製剤廃棄削減の取り組みについて	8
一般演題 3 当院の自己血輸血の現状について	9
一般演題 4 輸血関連性急性肺障害 (TRALI) の一症例から学んだこと	10
特別企画 輸血の素朴な疑問 Q&A.....	11
特別講演 輸血の安全と輸血チーム医療.....	14
広告協賛企業名一覧.....	18



ごあいさつ

第 34 回福島県輸血懇話会実行委員長
公立岩瀬病院 名誉院長
三浦純一

このたび、第 34 回福島県輸血懇話会を開催させていただくことになりました。昨年開催予定でした第 33 回はコロナ禍によって開催できず、残念ながら中止となってしまいました。

今回はみなさまのご協力とご尽力のおかげをもちまして、あらためて第 34 回として開催するはこびとなりました。

WEB 開催ではありますが、本日ご参加くださいましたみなさまには、日ごろの臨床成果を發表していただき、存分に議論を深めていただければ幸いです。

福島県輸血懇話会の目的に掲げられている、関係各団体との友好をはかりつつ、福島県の輸血医療に関わる多くの人々の輸血知識の向上をはかり、県民の輸血の安全性の向上を目指すために、特別講演を企画しました。

演者は東京都立墨東病院輸血科部長の藤田浩先生にお願いし、演題は「輸血の安全と輸血チーム医療」でご講演いただく予定です。ぜひ、日頃の輸血の安全と輸血のチーム医療を推進する意味で深く学んでいただければ幸いです。

また、一般演題は 4 題の発表があります。さらに、「輸血の素朴な疑問 Q&A」と題した特別企画を準備しました。みなさまのご発表や意見交換で輸血への知識や知見が深まることを期待します。

今回の第 34 回福島県輸血懇話会の開催にあたり、世話人のみなさま方、また実行委員を快く引き受けてくださいましたみなさま方に心より感謝申し上げます。

福島県輸血懇話会開催地・特別講演一覧

	開催日	開催地	特別講演	講師
第1回	1988/10/29	郡山市	輸血懇話会の発足にあたって (挨拶)	大戸 斉
第2回	1989/09/09	郡山市	輸血副作用とくに溶血性副作用について	遠山 博
第3回	1990/09/08	郡山市	よりよい輸血療法のあり方	二之宮 景光
第4回	1991/09/07	郡山市	HLA の進歩と骨髄バンク	十字 猛夫
第5回	1992/09/12	郡山市	輸血後移植片対宿主病の発生機序と対策	前田 平生
第6回	1993/09/11	会津若松市	新しい輸血の考え方-安全で適正な輸血療法	湯浅 晋治
第7回	1994/09/10	郡山市	輸血はこうすれば安全にできる	清水 勝
第8回	1995/09/09	いわき市	緊急時と外科出血への輸血の諸問題	稲葉 頌一
第9回	1996/09/14	郡山市	安全な輸血に必要な体制と侵しがちなミス チェックポイント	柴田 洋一
第10回	1997/09/06	原町市	血液型不適合妊娠の管理	中村 幸夫
第11回	1998/09/05	郡山市	輸血におけるインフォームドコンセント	霜山 龍志
第12回	1999/09/04	白河市	血小板輸血の適応・基準・感作	椿 和央
第13回	2000/09/09	二本松市	新しい輸血療法適正化ガイドライン	比留間 潔
第14回	2001/09/22	会津若松市	凝固障害と輸血-出血時の上手な輸血の使い方-	高松 純樹
第15回	2002/09/07	郡山市	輸血医療のチェックポイント-I&A による安全の保証-	星 順隆
第16回	2003/09/06	国見町	血小板臨床のトピックス	半田 誠
第17回	2004/09/04	いわき市	安全管理と輸血過誤	塩原 信太郎
第18回	2005/09/03	相馬市	輸血感染症の現状	池田 久賓
第19回	2006/09/02	郡山市	貯血式自己血輸血の推進と適正輸血への貢献	脇本 信博
第20回	2007/09/15	白河市	輸血の副作用	佐竹 正博
第21回	2008/09/06	会津若松市	緊急・大量出血への対応	稲田 英一
第22回	2009/09/26	二本松市	血小板輸血副作用と洗浄血小板による対策	東 寛
第23回	2010/09/11	郡山市	初歩から学ぶ輸血の実際	大久保 光夫
第24回	2011/09/17	福島市	救命救急センターと緊急輸血	益子 邦洋
第25回	2012/09/29	いわき市	産科危機的出血への対応	久保 隆彦
第26回	2013/09/21	白河市	輸血・細胞療法における看護師と臨床検査技師の役割	室井 一男
第27回	2014/09/13	猪苗代町	貧血と輸血の適切な使用法	牧野 茂義
第28回	2015/09/19	南相馬市	自己血輸血の推進と看護師の役割 輸血有害事象の評価と安全な輸血への応用	内藤 真美 紀野 修一
第29回	2016/09/17	二本松市	エビデンスに基づいた赤血球輸血を目指して	米村 雄士
第30回	2017/09/09	郡山市	血液製剤の新しい使用ガイドライン	松下 正
第31回	2018/09/22	福島市	赤血球不規則抗体に関する多施設共同研究	竹下 昭裕 Veera Sekaran Nadarajan
第32回	2019/09/14	いわき市	止血に働く血小板、働かない血小板 ～内科臨床・研究を通して学んだこと～	玉井 佳子
第33回	2020/09/12	須賀川市	中止	中止
第34回	2021/10/16	WEB	輸血の安全と輸血チーム医療	藤田 浩

第34回福島県輸血懇話会プログラム

■ 開会の辞 (14:00~14:02)

第34回福島県輸血懇話会 実行委員長

公立岩瀬病院 名誉院長 三浦 純一

■ 代表世話人挨拶 (14:02~14:05)

■ 一般演題 (14:05~14:45)

座長 第34回福島県輸血懇話会 副実行委員長

医療法人平心会 須賀川病院 副院長 佐藤 晃一

1. 『 当院における貯血式自己血輸血の現状と今後の課題 』

(一財)脳神経疾患研究所付属総合南東北病院 看護部¹⁾ 臨床検査科²⁾ 麻酔科³⁾
○緑川美智子¹⁾ 佐久間香²⁾ 服部尚士³⁾

2. 『 輸血用血液製剤廃棄削減の取り組みについて 』

医療法人平心会 須賀川病院 検査科¹⁾ 心臓血管外科²⁾
○坪井智子¹⁾ 佐竹理佳¹⁾ 小林圭子¹⁾ 佐藤晃一²⁾

3. 『 当院の自己血輸血の現状について 』

医療法人三愛会 池田記念病院 看護部¹⁾ 臨床検査科²⁾
○上遠野清香¹⁾ 大森美智恵¹⁾ 坂寿子²⁾ 佐久間美穂²⁾

4. 『 輸血関連性急性肺障害 (TRALI) の一症例から学んだこと 』

公立岩瀬病院 看護部¹⁾ 産婦人科²⁾ 外科³⁾
○渡邊富美子¹⁾ 久保木富美子¹⁾ 伊藤恵美¹⁾ 鴻地由大²⁾
石橋真輝帆²⁾ 伊藤史浩²⁾ 土屋貴男³⁾

■ 特別企画 (14 : 45～15 : 15)

座 長 福島県立医科大学 輸血・移植免疫学講座 主任教授 池田和彦

『 輸血の素朴な疑問 Q&A 』

■ 休憩 (15 : 15～15 : 30)

■ 特別講演 (15 : 30～16 : 30)

座 長 第 34 回福島県輸血懇話会 実行委員長
公立岩瀬病院 名誉院長 三浦 純一

『 輸血の安全と輸血チーム医療 』

東京都立墨東病院 輸血科 部長
藤田 浩 先生

■ 次年度実行委員長挨拶

竹田総合病院 整形外科科長 山田 登 先生

■ 認定合格者紹介

■ 閉会の辞

第 34 回福島県輸血懇話会 副実行委員長
医療法人三愛会 池田記念病院 院長 川前 恵一

一般演題 1

当院における貯血式自己血輸血の現状と今後の課題

(一財)脳神経疾患研究所附属総合南東北病院 看護部¹⁾ 臨床検査科²⁾ 麻酔科³⁾

○緑川美智子¹⁾ 佐久間香²⁾ 服部尚士³⁾

【はじめに】

当院は病床数 461 床の二次救急病院である。貯血式自己血輸血は泌尿器科・脳神経外科・消化器外科・呼吸器外科・心臓血管外科で行われている。2017 年に自己血輸血認定看護師（以下、認定看護師）の学会認定を受け、2019 年 12 月より自己血採血室を開設した。以降、貯血式自己血輸血のガイドラインに則った運用をし、自己血輸血管理体制加算を取得している。2019 年 12 月から 2020 年 12 月の自己血貯血件数は 109 件あり、そのうち 60 件が自己フィブリン糊であった。本稿では、当院における貯血式自己血輸血運用を振り返り、見出された問題点と対策について分析し、今後の課題について検討した。

【貯血式自己血輸血の運用】

1) 自己血採血室開設前

自己血貯血は本院に隣接する外来専門の医療クリニックで行われていた。その手順はマニュアル化されておらず、患者の体調確認は看護師による問診のみで、対応に差が生じていた。貯血に使用される物品は側管のない血液バックであり、補液は実施されていなかった。患者への指導として水分摂取の促しはされていたが、統一された内容ではなかった。V V R 発症時の対応も明文化されていなかった。

2) 自己血輸血看護師による対策

2017 年に認定看護師の学会認定を受けてからは、認定看護師が中心となり、問診表の作成、スタッフを対象とした勉強会開催、輸血療法委員会との連携が実践された。2018 年度には自己フィブリン糊導入に向けて、学会指針に沿った自己血貯血マニュアル及び V V R 発症時対応マニュアルが作成された。2019 年 12 月より自己血採血室が稼働し、患者の安全を重視した適正な貯血ができる体制を整えた。物品の改善としては、側管付き血液バックを採用したことで、貯血終了後に補液を実施するようになった。

3) 現状と課題

自己血輸血医師管理の下、認定看護師の取り組みにより、より安全な自己血貯血の管理ができるようになった。指示の統一もされ、自己血貯血の体制が整えられたことにより、貯血式自己血輸血の確実な実施に繋がっている。課題としては、事前の患者へのオリエンテーションが不十分で貯血当日に運転して来た患者や、貯血の流れが分からないと訴える患者がいたことが挙げられている。安全な自己血貯血には患者の協力が必要である。事前の説明内容の見直しを行い、分かりやすい方法を検討する必要がある。

【今後の取り組み】

自己血採血室が開設されて今年度で 2 年目となる。貯血の指示は各診療科から出されるため院内での患者のオリエンテーションの統一が必要と考える。貯血人数の増加に伴い、より安全な自己血貯血ができるよう医師、輸血検査技師と協力して取り組んでいきたい。

【連絡先】 輸血検査室（直通）024（934）5407

一般演題 2

輸血用血液製剤廃棄削減の取り組みについて

医療法人平心会 須賀川病院 検査科¹⁾ 心臓血管外科²⁾

○坪井智子¹⁾ 佐竹理佳¹⁾ 小林圭子¹⁾ 佐藤晃一²⁾

【はじめに】

外科系の診療科では、手術時に輸血用血液製剤を準備することは必要である。しかし、術後に不使用となることも多々ある。今回、当院での輸血用血液製剤廃棄削減に向けた取り組みを報告する。

【取り組み】

- 2015年 電子カルテや病棟に在庫のお知らせの掲示
- 2018年6月 在庫のお知らせに患者名と担当医の記載を追加
- 2019年8月 心臓血管外科医へ、院内メールでの在庫の連絡を追加
- 2020年 在庫のお知らせと院内メールでの在庫の連絡を継続

【結果】

2017年から2020年までの4年間についての廃棄率の変化

2017年	RBC	2290U 使用	廃棄 38U	廃棄率 1.66
2018年	RBC	1957U 使用	廃棄 39U	廃棄率 1.99
2019年	RBC	1759U 使用	廃棄 28U	廃棄率 1.59
2020年	RBC	1782U 使用	廃棄 2U	廃棄率 0.11

【考察】

心臓血管外科、整形外科など、手術用として準備したにもかかわらず不使用になった輸血用血液製剤の転用にはかなり苦慮する場合が多い。以前は、電子カルテや病棟での掲示のみであったが、輸血を発注した医師に直接連絡を取ることによって在庫血に対しての意識が高くなり、他の使用予定患者へ在庫血の転用をスムーズに行うことが出来るようになった。

【連絡先】 須賀川病院 検査科 0248-75-2211 (200)

一般演題 3

当院の自己血輸血の現状について

医療法人三愛会 池田記念病院 看護部¹⁾ 検査科²⁾

○上遠野清香¹⁾ 大森美智恵¹⁾ 坂寿子²⁾ 佐久間美穂²⁾

【はじめに】

当院では、整形外科を主とし年間約 1000 件の手術を行っている。その内、自己血輸血は 12.8%実施している。

手術を受ける患者は高齢者が多く膝関節置換術 (TKA)、股関節置換術 (THA) の場合に自己血輸血を安全に考慮し行っている。

今回、当院で実際に行われている自己血輸血の現状をまとめたので報告したい。

【期間と対象】

2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日までの期間、自己血輸血を実施した全ての患者の手術部位別に、性別、年齢、貯血量を調べた。また、自己血を実施した患者のうち 30 例をランダムにピックアップしヘモグロビン(Hb)値の変動を調査した。

【結果】

当院での自己血輸血は 61 歳～80 歳が 80%で女性が 82%をしめている。

手術前、直後、1 週間後の Hb 値については、手術直後の TKA は平均 2.2 g/dl、THA は平均 3.1g/dl の低下があり自己血返血後に Hb 値は上昇するも術後 1 週間にはまた減少傾向がみられた。

学会の返血実施基準が明確にされていないため返血時の Hb 値が 8.9～15.3g/dl と幅があった。

【考察】

今回のデータにおいて、自己血輸血が実施されたにも関わらず術後一週間の Hb 値が減少傾向にあり、貧血傾向では術後の回復に悪影響を及ぼす恐れがあると考えられる。

自己血輸血は院内で実施管理体制が適正に確立していることが必要であり輸血に関する情報の共有は輸血療法委員会で行っている。

当院では自己血輸血を推奨するとともに、高齢者の割合が高いことから、手術による出血の影響を考え安全に自己血輸血を行うことが大事だと感じた。また、自己血輸血の副作用リスクも考え、返血時基準の策定を考慮したい。

【連絡先】 0248-75-2335

一般演題 4

輸血関連性急性肺障害 (TRALI) の一症例から学んだこと

公立岩瀬病院 看護部¹⁾ 産婦人科²⁾ 外科³⁾

○渡邊富美子¹⁾ 久保木富美子¹⁾ 伊藤恵美¹⁾ 鴻地由大²⁾

石橋真輝帆²⁾ 伊藤史浩²⁾ 土屋貴男³⁾

【はじめに】

異所性妊娠の破裂により、出血性ショック状態となり大量輸血を実施された患者が一命をとりとめた。輸血後の患者の状況から、輸血関連性急性肺障害（以下 TRALI とする）を疑い多職種が連携し対応を行った。本事例を通して学んだことを報告する。

【症例】

・患者紹介：20 歳代女性 異所性妊娠 外国籍 B 型

・経過：来院前日より下腹部痛出現するが自宅で経過を見ていた。近医を受診し下腹部痛、月経前症候群の診断で当院の産婦人科へ紹介となるが意識レベル低下を認め救急搬送された。当院到着時は腹部全体に圧痛や腹満があり JCS II - 30 であった。造影 CT の結果、造影剤の血管外漏出や多量の血性腹水、子宮前面に出血源であり左卵管と思われる腫瘍が認められ妊娠反応陽性のため異所性妊娠破裂の診断にて緊急手術となった。

開腹所見は左卵管膨大部妊娠破裂による腹腔内大量出血であり、左卵管切除術を施行した。総出血量は 1470(ml)で濃厚赤血球 6 単位 凍結血漿 6 単位 5%アルブミン 500ml 投与した。手術室より帰室後、酸素 5L マスクにて投与し、濃厚赤血球 4 単位 凍結血漿 6 単位を追加投与した。帰室 2 時間後、喘鳴著明となり SpO₂ が 83%と低下がみられたため、酸素 10L マスクへ変更とした。帰室 2 時間 30 分後 SpO₂ は 88~91%へ上昇するも呼吸状態の改善不良であったため、気管挿管による補助呼吸が必要と判断した。DAM（気道困難管理に必要な資材を集めた）カートが必要なため手術室に連絡し、手術室スタッフが DAM カートを持参し介助、人工呼吸器を接続した。胸部レントゲンにて両肺野に瀰漫性の浸潤影を認めたため、麻酔科医が TRALI の可能性を指摘し輸血による重篤な副作用の可能性を考慮し、検査室を経由して日本赤十字社へ報告を行った。

患者は人工呼吸器管理により、呼吸状態は徐々に安定し術後 4 日目に抜管、術後 5 日には食事が開始され術後 9 日目に無事退院された。その後原因不明の TRALI に評価されたと日本赤十字社より連絡があった。

【結語】

輸血療法は極めて有効な治療であるが副作用を完全に回避することは難しい。十分に注意して輸血を実施しても、発症頻度がまれで重篤な TRALI などの副作用が起こる事例を経験した。今後は今回の事例を院内全体で共有し、副作用出現時は各部署の連携をより一層深め適切に対応できるよう努めていきたいと考える。

【連絡先】 0248-75-3111 (7666)

登場人物



新人看護師
勤務1年目。
がんばりや。



ベテラン看護師
この道数十年のキャリア。
整形経験が長く、
自己血関係に詳しい。



輸血認定看護師
頼れる認定看護師。



医師
輸血に精通している。
優しい。

あれ？こんなときどうするんだっけ...今さら聞けないこんなこと、ふだん疑問に思っていること、この機会に聞いてみませんか？

今回の企画は、とある複数の病院から募集した輸血に関する質問・疑問の内容について回答するコーナーです。基本的な手技から検査のことなど、復習の意味も込めてみなさんと一緒に考えていきたいと思えます。

会当日は、zoomの機能（投票・挙手・チャットなど）を利用して参加することができます。

- Q1 術中、麻酔科 Dr.が濃厚赤血球と FFP はフィルター付きの輸血セットを使ってくれますが、血小板専用の輸血セットを使用してくれません。問題はないのでしょうか？
- Q2 450ml のバックに採血量が 300ml～405ml の場合 AABB では使用可。300ml 以下でも管理医師の承諾があれば使用できる。また、他文献では 200ml 以上採血できていれば返血してよいと考えている、とあります。実際クエン酸中毒のことを考えた場合は採血量最低何 ml 採血できていれば返血可能でしょうか？
- Q3 輸血を実施する際、ダブルチェックを忘れて別患者の輸血を投与してしまった場合、どのように対処すればいいですか？



Q1～3 について懇話会当日に一緒に考えましょう

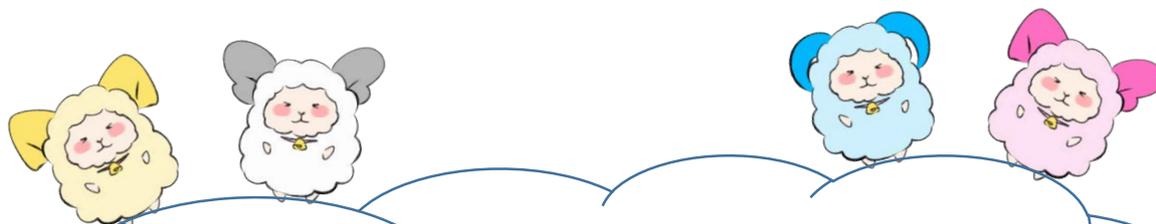


特別企画 輸血の素朴な疑問 Q&A

- Q4 輸血セットにフィルターがついているのはなぜですか？
- Q5 点滴のラインを使用してもいいですか？
- Q6 血管が虚脱してなかなかルートがとれません。どうしてもとれない場合 24G の針でもいいですか？
- Q7 赤血球輸血の場合、針やルートの指定はありますか？
- Q8 中心静脈 (CV) ラインからの輸血はできますか？
- Q9 末梢血管と CV で輸血速度は変わりますか？
- Q10 輸血投与開始から最初の 10~15 分間は 1mL/分程度の投与とされているのはどうしてですか？
- Q11 輸血速度について教えてください。
- Q12 輸血と他の薬剤を混ぜて行なってもいいですか？
- Q13 むかしは赤血球輸血時には加温していたけど、今は加温しないんですか？
- Q14 むかしは赤血球輸血時には生食で薄めていたけど、今は薄めないんですか？
- Q15 透析中に輸血はできますか？
- Q16 ラインフラッシュをするときに生食の代わりに点滴でフラッシュしてもいいですか？
- Q17 血小板輸血の際、病棟や外来に振盪器がない場合、どのくらいで投与しなければならないのでしょうか？
- Q18 FFP の融解時、自然解凍でもいいですか？
- Q19 ラインをまず生食で確保し、輸血を実施する際、医師から「生食もゆっくり流して良い (20ml/h 程度)」と指示があった場合、投与してもいいですか？
- Q20 外来で輸血をする場合の観察は輸血後どのくらいの時間まで必要でしょうか？
- Q21 もともと発熱していると輸血の副作用なのかどうか分からないのですが、どうすればいいのでしょうか？
- Q22 緊急輸血のときに副作用が出た場合、中止した後はどのように対処すればいいですか？
- Q23 不規則抗体検査を行なう理由はなんですか？
- Q24 輸血後感染症検査の採血は半年後なのはどうしてですか？
- Q25 不規則抗体(+)で夜間帯に緊急で輸血が必要なとき、交差適合であればとりあえず払いだしていいですか？
- Q26 新生児の血液型を検査する際、母体由来の抗体の影響は受けますか？
- Q27 血液型が不明の患者へ輸血する場合、危機的出血と同様の対応でいいですか？
- Q28 採血するとき血管が細く漏れやすいことがあります。貯血時の針は何 G まで使用可能ですか？
- Q29 自己血貯血の採血時、血液が途中で採血できなくなる場合があります。このような時の対処方法を教えてください。

特別企画 輸血の素朴な疑問 Q&A

- Q30 輸血を実施する時「輸血療法の実施に関する指針」に沿って持ち出した後はできるだけ早く使用する」とありますが冷所から出して患者さんへ実施するまでもっともベストな時間はどれ位でしょうか？
- Q31 輸血製剤、血小板製剤の使用期限が赤血球や血小板自体の寿命より短いのはどうしてですか？また、自己血の保存期間が長いのはどうしてですか？
- Q32 献血できる年齢は何歳までですか？
- Q33 最近ではタトゥーを入れて6ヶ月後より献血可能ですが、その自己申告を信じて献血してよいのでしょうか？
- Q34 献血は400ccのみお願いされるが、それだと献血する人が少ないのではないのでしょうか？
- Q35 FFP製剤の使用期限が採血から1年間なのはなぜですか？
- Q36 血液型 RhoD の o は何ですか？
- Q37 異型輸血の原理を教えてください。
- Q38 エホバの証人で赤血球輸血はダメだがその他は良い方がいるようだが、その場合の対応はどうすればいいですか？
- Q39 交差適合でもアレルギー反応が出る場合があるのはどうしてですか？
- Q40 副作用観察の実際（臨床での体験など）を教えてください。



Q4～Q40 までの回答は福島県輸血懇話会ホームページに掲載中

特別講演

『 輸血の安全と輸血チーム医療 』

東京都立墨東病院 輸血科

藤田 浩 先生



講師紹介

ふじた ひろし
藤田 浩 先生

現職 東京都立墨東病院 輸血科 部長
兼務 東京医科歯科大学 大学院 細胞機能講座 非常勤講師
東京都立荏原看護学校 非常勤講師
東京都福祉保健局 疾病対策課 献血移植担当 適正使用部会 委員

< 学歴 >

昭和 62 年 杏林大学医学部卒業
平成 5 年 杏林大学大学院修了 医学博士取得

< 職歴 >

平成 62 年～平成 1 年 杏林大学医学部附属病院 第 2 内科 研修医
平成 5 年 4 月 杏林大学医学部附属病院 第 2 内科 専攻医
平成 6 年 10 月 杏林大学附属病院 第 2 内科 助手
平成 9 年 4 月 東京都立墨東病院 内科 非常勤医員
平成 11 年 5 月 東京都立墨東病院 内科 医員
平成 13 年 7 月 東京都立墨東病院 輸血科 医長
平成 22 年 10 月 東京都立墨東病院 輸血科 部長

< 所属学会・資格等 >

第 29 回 日本輸血細胞治療学会秋季シンポジウム会長 (令和 4 年)
第 37 回 日本自己血輸血・周術期輸血学会 会長 (令和 6 年)
日本輸血・細胞治療学会 評議員、関東甲信越支部例会 理事、
輸血認定医、細胞治療管理師
日本自己血輸血・周術期輸血学会 常務理事、自己血輸血責任医師
日本内科学会 総合内科専門医
日本血液学会 血液専門医
日本航空医療学会、日本産婦人科新生児血液学会、日本臨床倫理学会など

輸血の安全と輸血チーム医療

東京都立墨東病院 輸血科 藤田浩
東京都輸血療法研究会 世話人代表

【はじめに】 臨床輸血看護師制度は10周年を迎えるにあたり、当院にも臨床輸血看護師の資格を有する看護師が増えてきた。臨床輸血看護師の活躍する場として、かつ輸血の安全を高める目的でのチーム医療の中核となる目的に、墨東病院輸血ラウンドチームが結成された。院内輸血安全体制は、輸血療法委員会と輸血ラウンドチームの両輪により維持されている。一方、東京都は高齢者人口、かつ受血者が多いこともあり、人生最終段階の治療方針のガイドラインが公表された後、終末期における輸血の立ち位置、在宅輸血の是非などが議論されるようになってきた。本特別講演では、そのような視点からも輸血の安全について講演し、皆様と議論を交わしたい。

【第一部 輸血と法規範】 輸血に関する説明と同意、人生最終段階における輸血治療中止など法規範と倫理について、再確認する。

【第二部 安全対策】 英国 SHOT で示す、避けなければならない輸血過誤として扱われる、ABO 不適合輸血、輸血の遅れ、取り扱い不備について、院内、東京都での活動を通じて得られた知見、経験を紹介する。また、東京都における在宅輸血に対する安全対策について解説する。

【第三部 チーム医療】 当院の輸血ラウンドチーム活動では、定例会議、輸血職場への訪問監査・研修会、医療安全セミナーの企画、輸血安全情報の発信など多岐にわたり、講演の中で具体的な活動を報告する。チーム活動で得られた成果物は、職員と情報共有するとともに、日本輸血細胞治療学会総会、関東甲信越支部例会などの学会にて発表し、モチベーション向上させるように努めている。

【さいごに】 当院は感染症指定医療機関であるので、一般病棟縮小、新型コロナ病棟増床などにより、普段輸血業務をしていない看護師が輸血実施する場面が増えている。今までそれほど起きていなかったインシデント・アクシデントが発生しており、コロナ禍によりチーム活動が制限されがちなか中、輸血の安全を担保するような有効な一手を考える日々を送っている。

主催	福島県輸血懇話会
共催	一般社団法人 日本輸血・細胞治療学会東北支部 一般社団法人 須賀川市医師会 福島県病院薬剤師会 公益社団法人 福島県看護協会県南支部 一般社団法人 福島県臨床検査技師会 株式会社イムコア バイオ・ラッドラボラトリーズ株式会社
後援	一般社団法人 福島県医師会 一般社団法人 福島県薬剤師会 公益社団法人 福島県看護協会

福島県輸血懇話会世話人会（令和3年4月1日現在）

物故会員	渡辺岩雄	元福島県赤十字血液センター 顧問
顧問	山崎美一	福島県臨床衛生検査技師会 元会長
名誉代表世話人	大戸斉	福島県立医科大学先端癌免疫治療研究講座名誉教授
名誉世話人	九里孝雄	福島県赤十字血液センターいわき出張所
代表世話人	六角裕一	JCHO 二本松病院 院長
副代表世話人	神林裕行	福島県赤十字血液センター 所長
	中村研一	白河厚生総合病院 血液内科
	管桂一	総合南東北病院 麻酔科
	池田和彦	福島県立医科大学輸血・移植免疫学講座 教授
	大島久美	聖路加国際病院/常磐病院 QIセンター/血液内科
	安永亨	いわき市医療センター 整形外科
広報	菊池良子	塙厚生病院 臨床検査科
会計監査	藤田沙耶花	いわき市医療センター 中央検査室
会計監査	高信嘉孝	塙厚生病院 臨床検査科
事務局	渡部和也	福島県立医科大学会津医療センター臨床検査部
	渡邊万央	福島県立医科大学附属病院 輸血・移植免疫部
	橋本はるみ	太田西ノ内病院 輸血管理室
	高田千春	竹田総合病院 臨床検査科
	木田陽子	福島労災病院 中央検査部
	鈴木桂子	福島県立医科大学会津医療センター 看護部
	片野めぐみ	塙厚生病院 看護部
	山野邊のりえ	いわき市医療センター 看護部
	渡邊範彦	福島県赤十字血液センター 学術・供給課

オブザーバー	内村良彦	株式会社イムコア	
オブザーバー	井瀉清	バイオ・ラッドラボラトリーズ株式会社	
オブザーバー	住本勝正	バイオ・ラッドラボラトリーズ株式会社	
オブザーバー	谷崎貴世江	福島県保健福祉部健康衛生総室	薬務課
オブザーバー	木幡裕信	福島県保健福祉部健康衛生総室	薬務課

(敬称略 順不同)

第34回福島県輸血懇話会実行委員会

実行委員長	三浦純一	公立岩瀬病院	名誉院長
副実行委員長	佐藤晃一	医療法人平心会	須賀川病院 副院長
副実行委員長	川前恵一	医療法人三愛会	池田記念病院 院長
事務局長	吉川誠一	公立岩瀬病院	臨床検査科
事務局	佐川美恵	公立岩瀬病院	臨床検査科
会計	遠藤奈津希	公立岩瀬病院	臨床検査科
実務委員	久保木富美子	公立岩瀬病院	看護部
実務委員	高橋恵子	公立岩瀬病院	看護部
実務委員	三本木信子	公立岩瀬病院	看護部
実務委員	安藤淑子	公立岩瀬病院	看護部
実務委員	紺野孝之	公立岩瀬病院	総務課
実務委員	有我朋樹	公立岩瀬病院	医事課
実務委員	室井淳	公立岩瀬病院	薬局
実務委員	小林圭子	医療法人平心会	須賀川病院 検査科
実務委員	坪井智子	医療法人平心会	須賀川病院 検査科
実務委員	坂寿子	医療法人三愛会	池田記念病院 臨床検査科
実務委員	上遠野清香	医療法人三愛会	池田記念病院 看護部

(敬称略 順不同)

広告協賛企業一覧

北陽電気株式会社
 バイオ・ラッドラボラトリーズ株式会社
 株式会社イムコア

(順不同)



ドライモード 解凍器

2バッグ



形式：FP-2000

4バッグ



形式：FP-4000

ドライに、かんたん解凍。

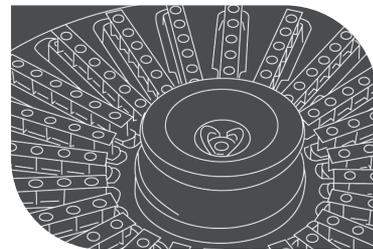
- 水を使用しません
- スタートボタンを押すだけの簡単操作です
- 自動で解凍をお知らせします

【本 社】
〒 364-0006
埼玉県北本市北本 1-156
TEL.048-591-3618
email : info@hokuyo-denki.co.jp

 **HOKUYO**
エビデンスのあるモノづくり
北陽電機株式会社
www.hokuyo-denki.co.jp

輸血検査の安全性、信頼性の 更なる向上を目指して

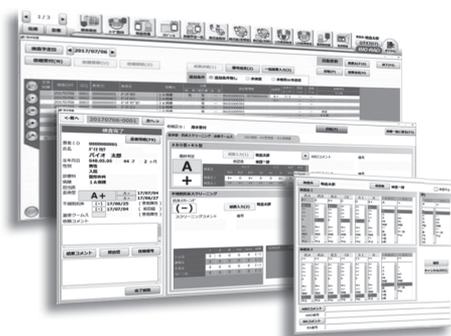
- 24時間体制に柔軟に対応します
- 測定結果の精度が向上します
- コストの抑制がはかれます



ゲルカラム凝集法「ID-System」
カード用全自動輸血検査装置

IH-500

一般医療機器、特定保守管理医療機器
届出番号：1383X0020600024



バイオ・ラッド 輸血管理システムⅢ



ゲルカラム凝集法「ID-System」
カード用全自動輸血検査装置

IH-1000

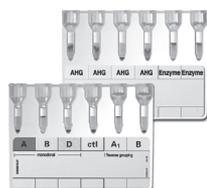
一般医療機器、特定保守管理医療機器
届出番号：1383X0020600020

カード用分注機
Swing



届出番号：1383X0020600016

ID-Card



IH-Com



**ABO Rh(D)
シリーズ**



Rh シリーズ



カード用遠心機
ID-Centrifuge L



届出番号：1383X0020600025

カード用リーダー
(遠心機能有)
Saxo IIb



届出番号：1383X0020600021

血球試薬



血液型判定用
抗血清シリーズ



クーミス/メディウム



カード用リーダー
Banjo



届出番号：1383X0020600018

カード用恒温機
ID-Incubator L



BIO-RAD

バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社

〒140-0002
東京都品川区東品川2-2-24

高い処理能力を持つ次世代の
全自動輸血検査装置

NEO Iris[®]



Seeing beyond limits with NEO Iris[®]

Brilliant Performance.
Clear Results.

優れたパフォーマンス

- タイプ&スクリーンでは最高のスループット
- 柔軟性のある緊急検体の割込。優先度設定が可能
- キャプチャーテクノロジーを採用。高感度で特異的に臨床的に意義のあるIgG不規則抗体を検出
- 幅広いテストメニューにABOタイトレーションが加わる

NEO
IRIS[®]



医療機器届出番号：13B3X10033000002

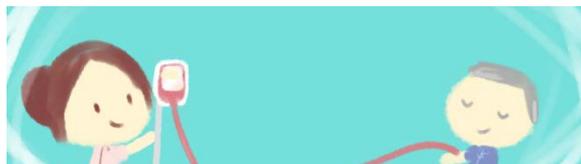
IMMUCOR[®]

Transfuse | Transplant | Transform a life

株式会社イムコア

〒105-0021 東京都港区東新橋2-4-6 バラッツオシエナ5F TEL:0120-16-4521

<https://www.immucor.com>



第34回福島県輸血懇話会抄録集

発行日 2021年（令和3年）9月15日
発行所 福島県輸血懇話会
発行責任者 大戸齊 神林裕行
編集委員 吉川誠一 佐川美恵 遠藤奈津希
発行部数 50部
印刷所 東京カラー印刷

